地域コミュニティを支える『こだいらコモンズ』

1 各敷地の特徴を活かした一体的なエリアマネジメント

私たちの設計チームは、本整備事業を本庁舎を中心とした地域コミュニティのこれからのあり方の議論の契機と捉え、従来の「団体自治の拠点（行政）機能」に加え「住民自治の拠点（交流・協働）機能」を強化します。
これまで行政機能が点在していた対象エリアを一体的にとらえなおし、特徴のある“３つのサイト”と、それらをつなぐ既存の植生を活かした“グリーンインフラ”からなる『こだいらコモンズ』＝公民協働の社会資源として整備することで、行政・防災・にぎわいのネットワークをつくりだします。

2 “グリーンインフラ”が繋ぐ３つのサイト

シビック・サイト

・新設建物の敷地を現市民広場とすることで、従来の利用環境や工事期間中の周辺への影響を最小限に抑えます。
・健康福祉事務機能が入る新設建物を健康センターに隣接して配置することで、健康福祉部内の連携を強化し、充実した公的福祉サービスに支えられた持続的な市民協働の場としての『シビック・サイト』を提案します。
・新設建物に隣接した福祉会館跡地を駐車場として整備することで、利用者の利便性に配慮します。

パーク・サイト

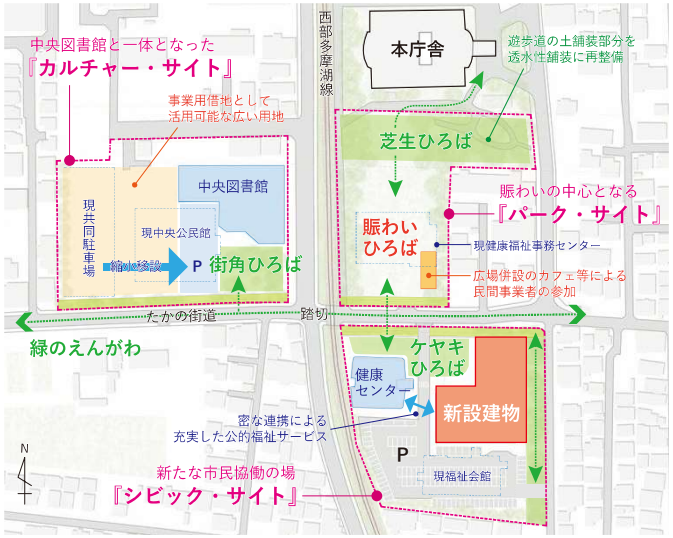
・健康福祉事務センター跡地を、新設建物と本庁舎、中央図書館を繋ぐ結節点と位置づけ、様々な用途に利用できる賑わい広場として整備することで、将来の柔軟な土地活用に対応します。
・広場にはカフェやマルシェ、プレイグラウンド等を併設する事ができるようにし、民間への貸付による財産活用を提案します。

△ひろばと連携した民間活用例

カルチャー・サイト

中央公民館解体後に共同駐車場を縮小・移設し、中央公民館跡地と一体となった広い用地を確保することで、事業用借地としての価値を高めるとともに、将来的に中央図書館を更新する際の用地としての利便性を確保します。

△中央図書館と相乗効果のある民間活用例



ケヤキひろば

パークサイトの賑わいを引き込む『ケヤキひろば』を新設建物に隣接してつくります。新設建物と健康センターをつなぎ、市民協働を促進する交流・憩いの場となります。

芝生ひろば

既存樹木を保存し、景観を守ります。バリアフリーの観点から遊歩道の舗装を再整備し、本庁舎と関連施設の連携を強化するとともに、利用者の利便性に配慮します。

街角ひろば

中央図書館南側にある既存の樹木広場を活かして整備することで、交差点のアイストップとなり、エリア全体の回遊の起点となります。

緑のえんがわ

・交通量が多い一方で、道幅が狭く安心して通行できない、たかの街道の歩道に沿って 5M の拡張帯を設け、歩行者の安全性に配慮します。
・ベンチ等のストリートファニチャーに加え、レインガーデン（緑の排水路）を設置することで、景観と環境に配慮した歩行者空間を提案します。
・将来的に道路が拡幅される場合は、道路用地として活用できます。

3 まち・緑と連続し調和する建物配置計画

ケヤキひろばに開いたＬ字配置

ケヤキひろばを取り囲むＬ字配置により、まちの賑わいを建物内に引き込み、市民が気軽に集まれる場所とすることで、市民協働を活性化します。

仮設建物のいらない建て替え

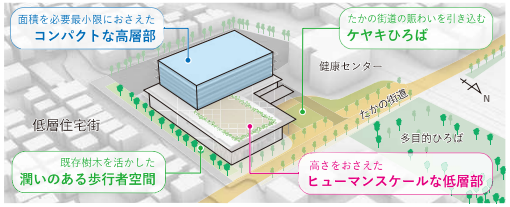
・関連施設や駐車場と干渉しないコンパクトな建物配置とすることで、仮設建物を必要としない計画とします。工事期間中の施設運用及び安全性に配慮するとともに、仮設工事費用を抑えつつ、工事工程に遅延のない計画とします。
・対象エリア内に活用可能な用地を最大限残した配置計画とすることで、将来的な関連施設の更新に配慮します。
・健康センターと充分な離隔距離（12M）をとることで、延焼ライン等、新建物建設に伴う隣接建物改修工事の負担を軽減します。

①中央図書館
②健康センター
③中央公民館
④健康福祉事務センター
⑤福祉会館

← 利用者／職員動線
← 工事車両動線
工事仮囲い

圧迫感をおさえたボリューム配置

・隣接する住宅街に配慮し、高層部をセットバックさせたボリュームとすることでまちに溶け込む表情をつくります。
・敷地東側の既存植栽帯は、既存樹木を活かした歩行者空間として整備し、利用者の利便性と周辺環境に配慮します。



景観と調和する『屋敷森ファサード』

・ケヤキひろばに面した低層部は、多摩産木材による板張りと“こもれびルーフ”の組み合わせによる『屋敷森ファサード』が、温かみのある表情を創出します。小平の歴史を守り、まちに寄り添ってきた屋敷森のように、強い日差しや雨を遮り、半屋外の公共空間における市民活動を支えます。
・高層部は水平性の高い庇によるシンプルな明るい外装とし、周辺環境と調和した陰影のある外観とします。

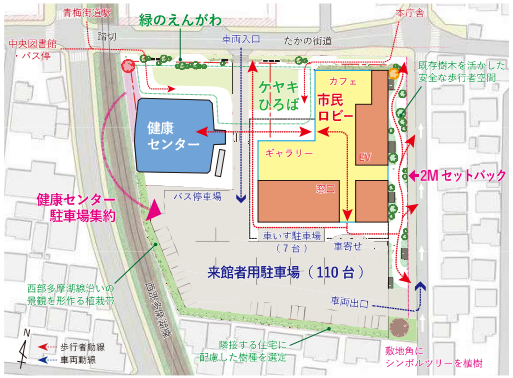
4 だれもが立ち寄りやすい開かれた活動拠点

裏をつくらない施設計画

・たかの街道に開いたケヤキひろばや通り抜け可能な敷地内通路が、まちの回遊性を高めます。
・１階市民ロビーは南北に抜ける構成とし、あらゆる交通手段による来訪者動線の移動距離を軽減します。
・ケヤキひろばに沿って市民ロビーやカフェ、市民ギャラリーといった市民に開かれた空間を配置することで、まちと連続し、開かれた施設を生み出します。

歩行者の安全性に配慮した動線計画

・健康センター駐車場を新設駐車場に集約し、跡地をケヤキひろばの一部とすることで、たかの街道沿いの良好な景観と安全な歩行者空間をつくります。
・建物出入口に隣接した庇下空間に、車いす用駐車場と車寄せを配置することで、雨天や猛暑等の天候に左右されずに利用できる快適なアプローチをつくります。



・歩道のない狭あい道路に面する敷地東側は、既存樹木を極力保存しながら透水性舗装による遊歩道の再整備を行うことで、建物のアクセシビリティを高めるとともに、市民が日常的に利用できる安全性に配慮した歩行者空間とします。

敷地周辺の渋滞緩和対策

・車両進入口を敷地北側、出口を東側に限定したワンウェイ動線とすることで、たかの街道の交通量を軽減し、踏切周辺の渋滞を緩和させます。
・車両出口を東側に配置したことによる狭あい道路の交通量増加に配慮し、敷地東側を 2M 道路状にセットバックさせ、利用者の利便性と歩行者の安全を確保します。
・車両進入口から駐車場に至るまでの車路長さを十分にとることで、大勢の来訪者が想定されるイベント等においても、踏切周辺の渋滞発生を抑制させます。